

実践報告

第9回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設 合同セミナー実践報告

曾田幸一朗¹⁾、打田明¹⁾、三島淳一¹⁾、平上尚吾²⁾、塚越累²⁾、川口浩太郎²⁾、岡田誠³⁾、
佃英明³⁾、藤岡宏幸²⁾、山崎せつ子²⁾、片山覚⁴⁾、道免和久⁵⁾

1) 兵庫医科大学病院リハビリテーション部、2) 兵庫医療大学リハビリテーション学部、
3) 兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、4) 兵庫医科大学ささやま医療センター、
5) 兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

The Practice Report: The Ninth Annual Seminar of Rehabilitation Medicine in Hyogo College of
Medicine Educational Foundation

Koichiro SOTA¹⁾, Akira UCHIDA¹⁾, Jyunichi MISHIMA¹⁾, Shogo HIRAGAMI²⁾,
Rui TSUKAGOSHI²⁾, Kotaro KAWAGUCHI³⁾, Makoto OKADA³⁾, Hideaki TSUKUDA³⁾,
Hiroyuki FUJIOKA²⁾, Setsuko YAMASAKI²⁾, Satoru KATAYAMA⁴⁾, Kazuhisa DOMEN⁵⁾

1) Department of Rehabilitation, Hyogo College of Medicine Hospital
2) School of Rehabilitation, Hyogo University of Health Sciences
3) Department of Rehabilitation, Hyogo College of Medicine Sasayama Medical Center
4) Hyogo College of Medicine Sasayama Medical Center
5) Department of Rehabilitation Medicine, Hyogo College of Medicine

抄 録

「第9回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー（以下、合同セミナー）」が2018年8月25日、兵庫医科大学教育研究棟にて開催された。合同セミナーは、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設の情報共有と相互研鑽を図ることを目的として、2010年から毎年開催されている。今回の合同セミナーには、学校法人兵庫医科大学でリハビリテーション医療に関わる医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などを中心に、兵庫医療大学学生も含め、法人内外から200名の医療専門職者が参加した。第二協立病院福田能啓病院長より「サルコペニアとリハ栄養」というテーマで特別講演が行われた。また、学校法人兵庫医科大学内の各施設で実施している研究や取り組み、症例報告などの一般講演が行われ、リハビリテーション医療について活発な意見交換がなされた。合同セミナーを通じて、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設の連携の成果は表れており、診療、研究、教育に関わる我々教職員は、今後も一層協働していく必要性を再認識した。

キーワード：学校法人兵庫医科大学、リハビリテーション、セミナー、実践報告

Key words : Hyogo College of Medicine Educational Foundation, Rehabilitation, Seminar, Practice Report

I はじめに

「学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」(以下、合同セミナー)は、兵庫医療大学リハビリテーション学部一期生が卒業を迎えた2010年に初めて開催され、今回で9回を迎えた。合同セミナーは、兵庫医科大学病院リハビリテーション部、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、そして理学療法士・作業療法士を養成する兵庫医療大学リハビリテーション学部が共同して、診療、研究、教育の三本柱をより強固にし、質の高いリハビリテーション医療を推進することを目的として開催されている。第9回の合同セミナーには例年通り、学校法人兵庫医科大学内にとどまらず、学校法人兵庫医科大学連携病院や兵庫医療大学リハビリテーション学部の実習施設など法人外からの参加者も含め、約200名の参加があり、活発な意見交換がなされた。

本報告では、第9回合同セミナーの開催内容と今後の展望などについて述べる。

II 第9回合同セミナー

第9回合同セミナーは2018年8月25日(土曜日)に兵庫医科大学教育研究棟で行われた。プログラムを資料1、合同セミナーの様子を図1、図2に示す。

特別講演

第二協立病院福田能啓病院長(前兵庫医科大学ささやま医療センター病院長)をお招きして「サルコペニアとリハ栄養」と題した特別講演を開催した。講演では、サルコペニアの病態からその症状、リハビリテーションの重要性と栄養管理の重要性について講演していただいた。講演後の質疑応答では、一般高齢者が注意すべき点についてや、透析患者に対する考え方について質問があり、活発に意見が交換された。リハビリテーション領域では、運動療法が介入の主体となる場合が多い。今回の講演では、その効果をより発揮するためにも栄養管理が重要であることをご教授いただいた。

資料1 プログラム

プログラム

平成30年8月25日(土) 14:00~17:40

会場: 兵庫医科大学 教育研究棟

1. 開会の挨拶 14:00~14:05

兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授 道免 和久

2. 法人代表挨拶 14:05~14:10

兵庫医科大学 理事長 新家 荘平

3. 特別講演 14:10~15:10

座長: 兵庫医療大学リハビリテーション学部 勝野 朋幸

テーマ: 「サルコペニアとリハ栄養」

講師: 第二協立病院 院長 福田 能啓 先生

(休憩 15:10~15:20)

4. 一般講演1 15:20~16:20

座長: 兵庫医科大学病院リハビリテーション部 橋本 幸久

演題1 兵庫医科大学病院リハビリテーション科 山崎 亜希

「パーキンソン病患者のリハビリテーションと運動学習」

演題2 兵庫医科大学リハビリテーション学部 伊藤 斉子

「アラワーアレンジメントを取り入れた健康増進プログラムの参加が地域高齢者の精神

機能に及ぼす効果—臺式簡易客観的精神指標検査と自由記述アンケートの分析—

演題3 ささやま医療センターリハビリテーション室 竹原崇登

「当院における脳損傷者に対する自動車運転支援チームの取り組みと課題」

(休憩 16:20~16:30)

5. 一般講演2 16:30~17:30

座長: ささやま医療センターリハビリテーション室 土田 直樹

演題1 兵庫医科大学病院リハビリテーション部 田中 隆史

「悪性胸膜中皮腫患者の術前後の身体機能と健康関連 QOL の関係」

演題2 兵庫医科大学リハビリテーション学部 坂口 顕

「臨床推論(クリニカル・リーズニング)に基づいた物理療法の実践」

演題3 ささやま医療センターリハビリテーション室 西郷 聡

「排痰補助装置を用いた呼吸練習の併用が運動耐容性と呼吸機能の改善に繋がった一症例」

6. 閉会の挨拶 17:30-17:40 兵庫医科大学リハビリテーション学部 藤岡 宏幸



図1. 特別講演



図1. 合同セミナー風景

資料1. プログラム

一般講演

一般講演は兵庫医科大学病院リハビリテーション部、ささやま医療センターリハビリテーション室および兵庫医療大学リハビリテーション学部からそれぞれ2演題ずつの発表が行われた。

兵庫医科大学病院リハビリテーション部からは、パーキンソン病患者のリハビリテーションと運動学習や悪性胸膜中皮腫患者の術前後の身体機能と健康関連QOLの関係について紹介された。

ささやま医療センターリハビリテーション室からは、脳損傷者に対する自動車運転支援チームの取り組みと課題、および排痰補助装置を用いた呼吸練習の併用が運動耐容能と呼吸機能の改善に繋がった一症例について発表された。

兵庫医療大学リハビリテーション学部からは、フラワーアレンジメントを取り入れた健康増進プログラムの参加が地域高齢者の精神機能に及ぼす効果や臨床推論（クリニカル・リーズニング）に基づいた物理療法の実践が紹介された。

いずれの講演においても、活発な質疑応答がなされていた。また、講演以外の時間にも、参加者各々が日頃の臨床実践や臨床研究、あるいは教育等についての情報交換を行っており、有意義な議論が交わされていた。

Ⅲ 参加状況

今回の合同セミナーの参加者は200名であった。参加者の内訳は、学校法人兵庫医科大学新家荘平理事長をはじめ、学校法人兵庫医科大学三施設教職員、学校法人兵庫医科大学連携病院の会に所属する病院ならびに兵庫医療大学リハビリテーション学部実習施設および卒業生が勤務する施設のリハビリテーションスタッフ、兵庫医療大学の学生、兵庫医療大学大学院医療科学研究科の大学院生などであった。

Ⅳ 今後の展望

今回で9回目を迎えた合同セミナーでは、例年通り、学校法人兵庫医科大学内の教職員・学生に加え、関連施設や周辺施設から多数の参加者があり、講演内外で活発で発展的な議論が交わされていた。

第二協立病院福田能啓病院長による特別講演、「サルコペニアとりハビリテーション栄養」は、本法人の診療および研究にとって大いに参考になるものであ

た。また、一般講演では、各施設で実施している研究報告だけでなく、臨床により近い症例報告やクリニカルリーズニングを再確認できる発表も含まれており、各施設のセラピストだけでなく、医療大学学生、さらには医療大学の卒業生においても学校法人兵庫医科大学三施設をアピールできる場となった。

本法人が開催しているリハビリテーション合同セミナーは、全国的にみてもあまり類を見ないセミナーである。学校法人藤田学園では藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座が主宰して定期的に研修会を実施しているが、外部からの講師を招聘して行う講演会の形が多い¹⁾。本法人のように同一法人内の多施設で実施している臨床、教育、研究について定期的に報告することは、同一法人内におけるリハビリテーションのあり方を共通認識として確認する上でも有意義であると考えられる。

今回の合同セミナーでは先進的・実践的な研究成果とともに、兵庫医科大学病院リハビリテーション部、ささやま医療センターリハビリテーション室および兵庫医療大学リハビリテーション学部における連携の成果が着実に表れており、学校法人兵庫医科大学内リハビリテーション関連施設のさらなる発展のきっかけになる会になったと考えられる。

今後も引き続き、学校法人兵庫医科大学内リハビリテーション関連施設の教職員は協働し、臨床を基盤とし共同研究を含めた臨床研究を通じて、3施設の「診療・研究」の関係性をより深めるとともに、臨床実習をはじめとする「教育」においても具体的な発展に繋げていくことが重要であると考えられる。

謝辞

このたび、第9回合同セミナー実践報告をまとめるに当たり、ご協力を頂いた兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、兵庫医療大学リハビリテーション学部、兵庫医科大学リハビリテーション医学教室および兵庫医科大学病院リハビリテーション部のスタッフの皆様に深謝いたします。

参考文献

- 1) 藤田リハビリテーション医学・運動学研究会：http://www.fujita-hu.ac.jp/~rehabmed/contents/s_reha_ken/about.html(2019年3月20日閲覧)